

かんきつのツノロウムシに対する各種薬剤の防除効果

カイガラムシ類に対し**有効な薬剤（スプラサイド剤）**の登録失効が予定されており、代替剤のツノロウムシに対する効果を昨年検討。しかし、**散布時期の遅れ**から、**効果が得られた薬剤はスプラサイドのみ**であった。そこで、本年は、**1齢幼虫主体の時期での効果を再検討**した。

- ・供試樹：愛媛果試第28号
- ・供試虫：ツノロウムシ
- ・供試薬剤：カイガラムシ類またはツノロウムシに登録がある剤

	令和4年	令和5年
散布日	7月17日	7月4日
散布時の 発育態	2齢幼虫後期主体	1齢幼虫主体
調査日	9月11日	9月11日



写真 ツノロウムシ ※数値は体長

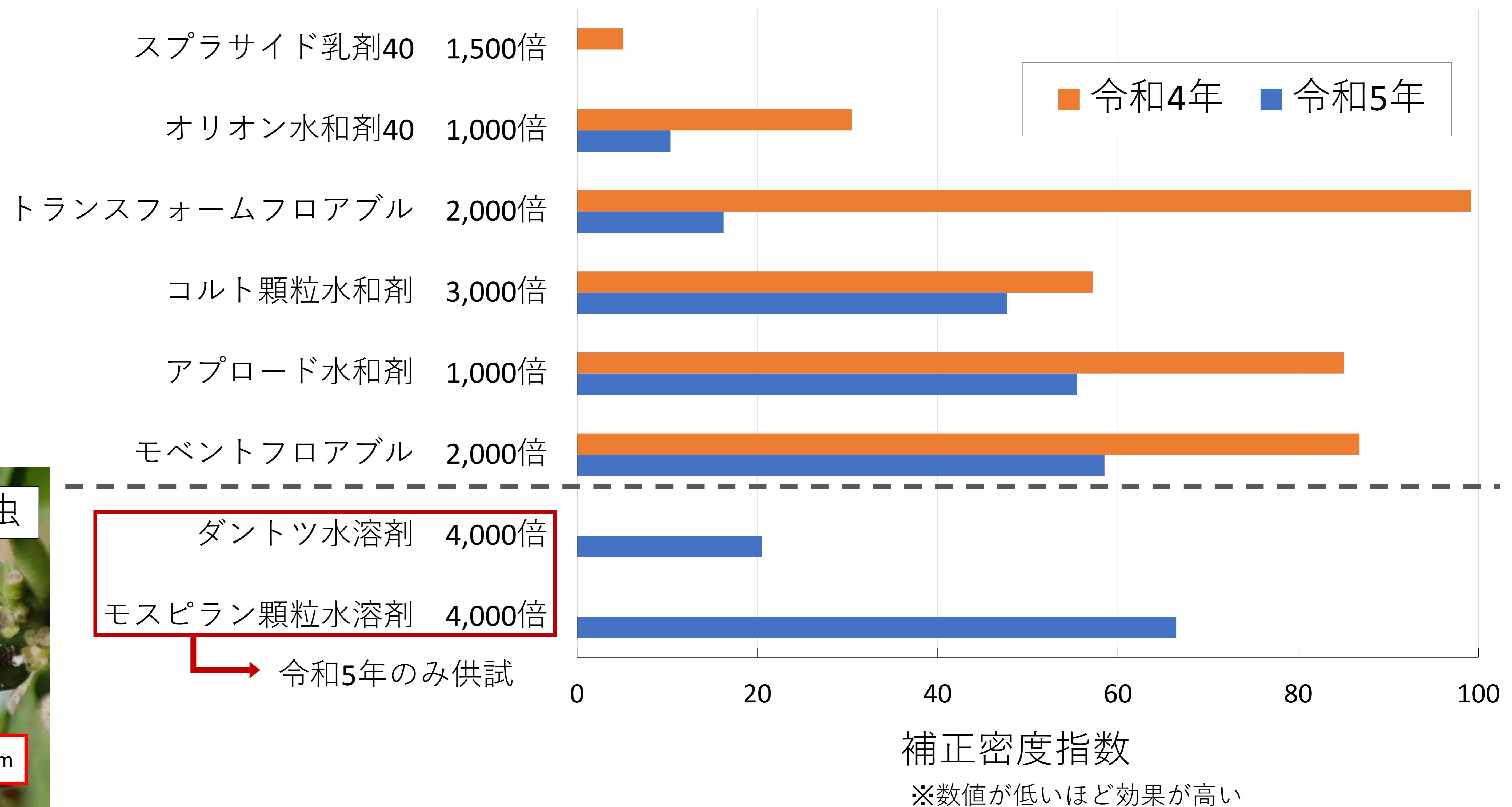


図 ツノロウムシに対する各種薬剤の防除効果

- ・スプラサイド乳剤40は時期（発育態）に関係なく高い防除効果
- ・オリオン水和剤、トランスフォームフロアブル、ダントツ水溶剤は、1齢幼虫が主体の時期に散布することである**程度の効果が得られた**
→**適期散布が重要**
- ・上記の剤以外は、1齢幼虫が主体の時期の散布でも十分な効果は得られなかった。
→**防除適期についてさらに検討（1齢幼虫発生初期）が必要**